

令和6年度 校内研究 研究主題

物事をより広く、深く考え、自分事として発信・行動できる児童の育成
～青小が行う、環境・人権・平和を大切にした持続可能な社会づくりをアップデート～

令和3年度より、SDGsを柱とした校内研究を開始した。

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
研究開始	単元開発	授業改善	単元開発・授業改善
授業実践 外部連携	ESDカレンダー (大単元)完成	思考ツール 話し合い段階表作成	話し合い・発信の方法 ブラッシュアップ

1 研究主題設定の理由

令和3年度に、本校の学校経営方針である「変化の激しい社会を生き抜き、持続可能な社会の造り手となる人材を育てる学校」を受けて、協働して持続可能な社会をつくる力を児童に付けていくために「自分事として世界につながり、自らの考えを実行できる児童の育成～青小で始める持続可能な社会づくり～」を研究主題として研究を始めていった。

1年目の研究を受けて、2年目以降は青山小学校としてどこに重点を置いて研究を進めるのか、どんな児童像を目指して研究を進めていくのかを確認し、「物事をより広く、深く考え、自分事として発信・行動できる児童の育成～青小が始める持続可能な社会づくり～」と研究主題を変更し研究を進めた。令和6年度は、これまでの3年間の研究をより磨き上げること、また、本校の研究の基本である「環境」「人権」「平和」を軸とした研究を進めることを目指して研究主題を設定した。

2 研究の経過

外部との連携の開拓やESDカレンダー（大単元）の作成、見直しを進めるとともに、思考ツールを使って児童の考えを形成する工夫、話し合いの形態や場面の工夫などに重点を置いて研究を行ってきた。令和6年度は、これまでの研究から「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」が本校の児童の課題であると考えられたことから、授業の中で効果的な話し合いを行っていくことや、学習成果をより広く発信するにはどのような方法があるかを検討しながら研究を進め、授業改善を通して、児童が自分事として学びを深めていくことができるようにしていく。

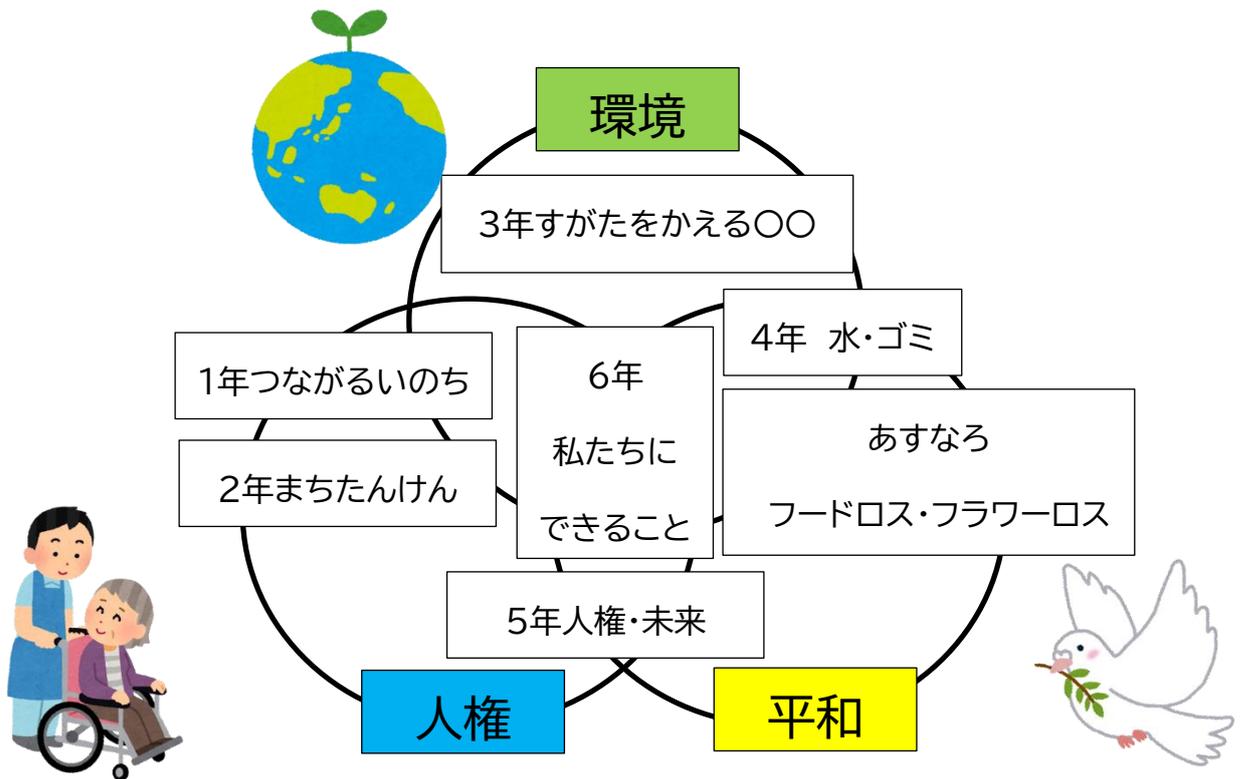
○話し合い活動の実践

→方法（思考ツール）・人数・形式・時間等の引き出しをつくる

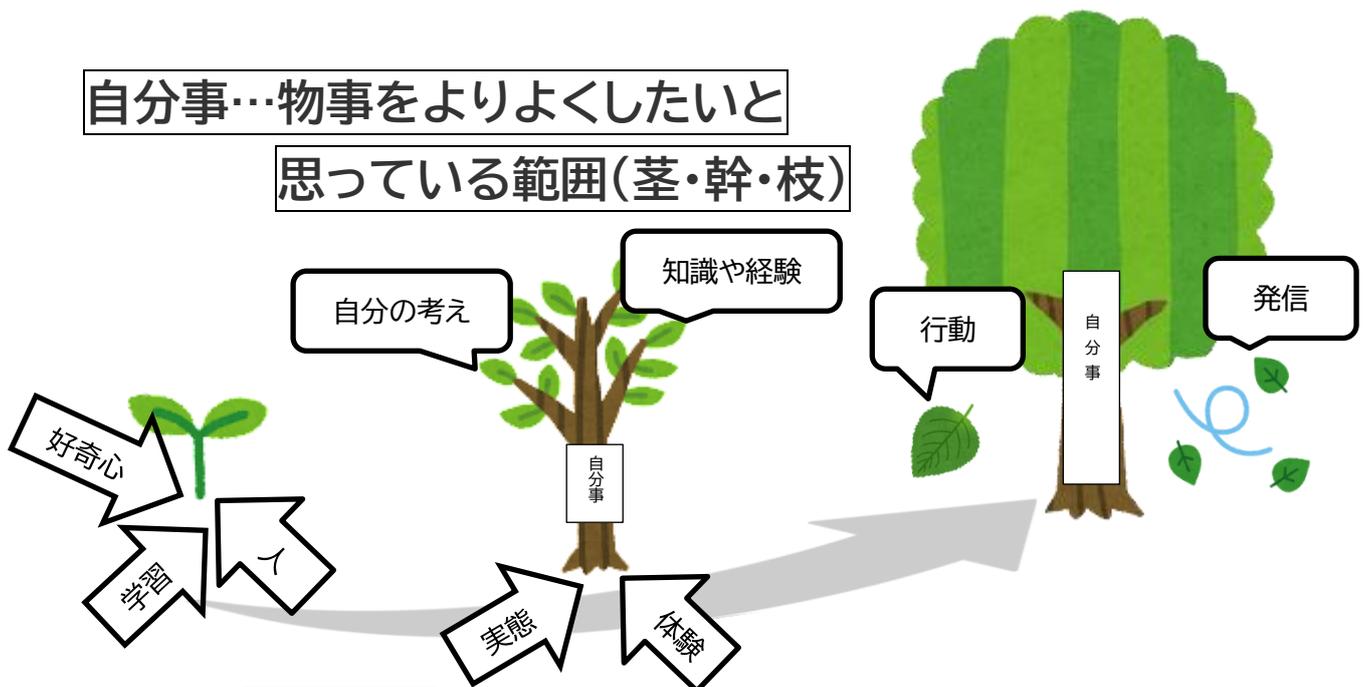
○発信の方法の検討・吟味

○「地域」に焦点を当てた連携

「都会のオアシス」活用プラン（企業との連携・校内資源活用）



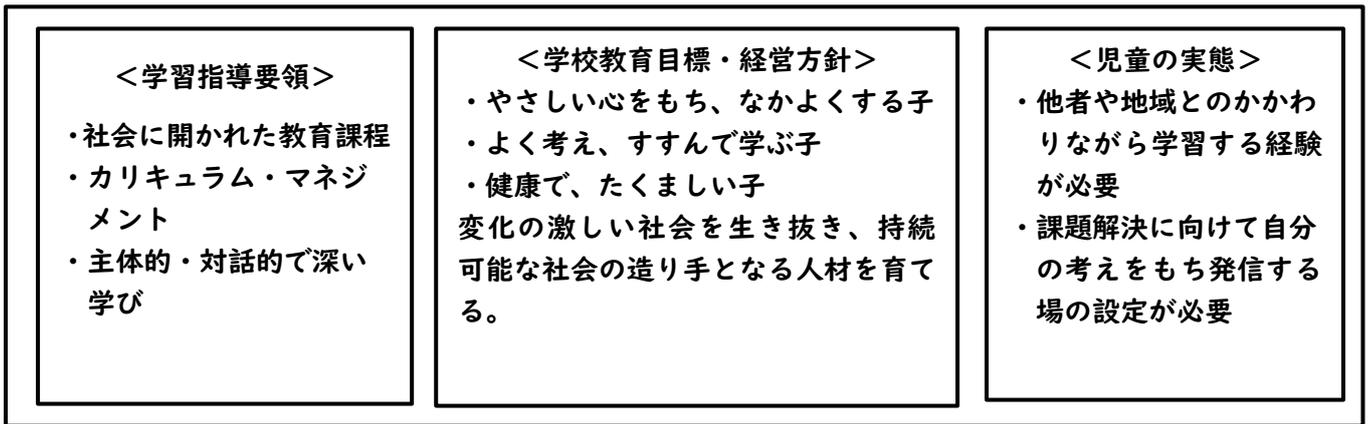
『自分事』について



「自分事」…意識的なもの感情を伴う自己同一化、よくしたいと思っている範囲

行動的なもの①学習を基に家庭でできた ②発信していく

令和6年度 港区立青山小学校 研究構想図



目指す児童像

あすなろ学級	相手意識をもって取り組み、 自分事として発信・行動できる児童
下学年	近くにいる人や自然とのつながりに気付き、 自分事として発信・行動できる児童
上学年	地域・社会に対する理解を深め、地域・社会の一員として よさや魅力を発信・行動できる児童

研究主題

物事をより広く、深く考え、自分事として行動・発信できる児童の育成

研究主題にせまるための手立て

SDGsの視点に立った授業づくり	自分事にするための授業づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ESD カレンダーを作成し、単元の位置付けを可視化する。 ・ESD カレンダーを4項目（平和・人権・環境・キャリア）で色分けすることで、学習内容を関連付け、大単元化して、教科横断的な学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入や展開等学習が広がったり深まったりする場面で、児童が興味関心をもつことができるように工夫する。 （出前授業、企業との連携） ・自分の考えをもったり、友達の考えを受け入れたりして考えを広げていけるよう、話し合いの仕方の工夫をする。 ・行動・発信をするために、学年や学級だけでなく、他の学年や保護者・地域・社会に行動・発信する機会をもつことで、自分たちの学びを自分事として伝えることができるようにする。